

◇激しい痛みを伴う尿管結石症に対しても十分な診察体制が整いました。

はじめに

泌尿器科は腎・尿路・男性生殖器および副腎など後腹膜臓器の疾患を扱う科です。代表的な疾患名は腎・尿管結石などの尿路結石、尿路感染症、前立腺肥大症・尿失禁・神経因性膀胱などの排尿障害や尿路悪性腫瘍などです。内科的治療から外科的治療までを幅広く行っております。当科

は常勤医師4名と非常勤医師1名で診療を行っております。今まではがん拠点病院という性格上、悪性腫瘍疾患の占める割合が多かったのですが、当科では今年6月より尿路結石治療も行えるように機器を整備し、ご紹介を頂いた患者さんや入院患者さんの診療に当たっています。

疾患の説明

■尿路結石について

尿路結石とは、尿路(腎臓から尿道まで)に結石が形成される病気です。

最初、尿路結石は尿の成分が結晶化して、腎臓で形成され、それが腎臓、尿管や膀胱の中で大きくなります。結石はそのある部位によって腎結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石と呼びます。

上部尿路結石(腎結石・尿管結石)と下部尿路結石(膀胱結石・尿道結石)に分けられ、上部尿路結石が全体の約96%を占めており、男女比は2.4:1で40年以上ほぼ一定で男性に多い病気です。

■原因

結石の原因としては、遺伝性、代謝異常(糖尿病、脂質代謝異常など)、内分泌疾患(クッシング病、副甲状腺機能亢進症など)、寝たきり状態や食生活などの生活習慣や肥満などがあげられます。

特に生活習慣病のひとつと考えられ、男性結石患者の40%以上に肥満を認め、糖尿病や高血圧をもつ人もリスクが高くなります。食生活や生活様式の欧米化が主な原因と考えられています。

■症状

痙痛発作(突然に生じる激しい痛み)、血尿が主な症候です。

腎臓にあるあいだはほとんど痛みを自覚することはありません。ところが結石が腎臓から尿管へ移動すると(尿管結石)、突然激痛を発するようになります。この痛みの原因は、結石が尿管に詰まり、尿の流れが悪くなり、尿の圧力が高まって、神経を刺激するためと考えられています。痛みは結石のある下腹部だけでなく、位置によりわき腹や腰に激痛が走ったり、鼠径部や陰のうに痛みを感じることがあります。また、結石が尿路を通過する際に尿管などの壁を傷つけるため血尿が出る場合があります。

時に尿管結石を放置して症状のない状態で長時間経過すると、腎臓が拡張(水腎症といいます)して尿を作るための腎実質が薄くなり、腎臓自体の機能が失われます。また、尿の流れが悪くなったところに細菌感染を起こすと、腎盂腎炎を起こし命に関わることもあります。

最近では診断技術の向上で、検診や人間ドックなどで行われたCTや超音波検査で見つかることもあります。

■治療

小さい結石(10mm未満)であれば、尿といっしょに排泄されることがあります。

自然排石は尿管結石では5mm未満で7割弱、10mm未満で4割程度であります。

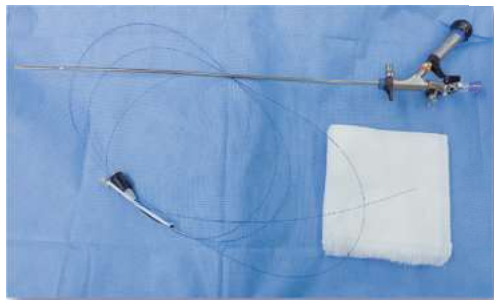
しかし、そうでない場合(10mm以上や1ヶ月以上経っても排石がないなど)には手術などによって治療する必要があります。

■手術

ESWL(体外衝撃波結石破碎術)、TUL(経尿道的結石破碎術)、PNL(経皮的結石破碎術)の3つの方法があります。

- ESWL(体外衝撃波結石破碎術):体の外から結石に向かって衝撃波をあてて、結石を砕く治療法です。
- TUL(経尿道的結石破碎術):内視鏡を尿道から入れて、尿管や腎臓の結石をレーザーなどで砕く治療法です。
- PNL(経皮的結石破碎術):2cm以上の結石や比較的大きな腎結石など治療に難渋する結石に対して行われ、背中に穴を開けて内視鏡を入れて結石を除去します。

当院ではTUL(経尿道的結石破碎術)、PNL(経皮的結石破碎術)を行うことができます。



レーザーと内視鏡



レーザーの器械

レントゲンの器械

内視鏡

手術風景



■ 予防

再発率が多い疾患で有り、日常生活での予防が大事になります。

①十分な水分摂取(2L程度の水分補給)②塩分を取り過ぎない③プリン体の多く含まれる食品・飲料の制限④カル

シウムを摂る⑤動物性脂肪・タンパク質を取り過ぎない⑥生活習慣の改善(適度な運動・過食をしない・バランスのよい食事・アルコールの飲み過ぎ、夕食から睡眠までの時間をあける(4時間程度)など)

おわりに

当院泌尿器科は、悪性腫瘍を中心に行っていましたが、結石治療を行えるようになり、さらに幅広く治療を行えるようになりました。当科は常勤医4名、非常勤医1名で診療をおこなっております。この9月から腎臓移植外科に泌尿器科より1

名常勤医として勤務をしております。

従来以上の体制でこれからもよりよい診療を提供すべく努力して行く所存に存じます。

スタッフ紹介(2020年12月現在)

- 市川 孝治(いちかわ たかはる) 医長
- 久住 倫宏(くすみ のりひろ) 医師
- 佐久間貴文(さくま たかふみ) 医師
- 窪田 理沙(くぼた りさ) 医師(腎臓移植外科)
- 津島 知靖(つしま ともやす) 非常勤医師
- 光井 洋介(みつい ようすけ) レジデント



外来担当表

診療科名	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
泌尿器科	市川				市川		津島		久住	
	佐久間					久住				